

九大・東教授 原刻本から96編

欧陽修の書簡“発掘”



中国の文人・欧陽修の新たな書簡を確認した九州大大学院の東教授

中国・宋代の文人、欧陽修(1007〜72)の研究者である九州大大学院比較社会文化研究院の東英寿教授(中国文学)は3日、欧陽修の書簡96編を発見したと発表した。人物像を把握する貴重な資料として日中の研究者に注目されそうだ。

中国・宋代屈指の文人

「人柄知る資料に」

欧陽修は詩人や政治家として知られ、唐から宋にかけて活躍した「唐宋八大家」の一人。高校の世界史の教科書にも登場する。

東教授によると、周必大という人物が1191〜96年に欧陽修の全集「欧陽文忠公集」を編さんした。中国国家図書館(北京)や日本の宮内庁、天理大付属天理図書館(奈良)などが同書の原刻本を所蔵。天理図書館のものは国宝に指定されている。

東教授は三つの原刻本と比較。中国国家図書館と宮内庁は内容が一致したが、天理図書館の原刻本を詳細に調べると、書簡96編が含まれていることが分かった。周必大が手掛けた全集は完成後も加筆されており、書簡96編も書き足されたと考えられる。

書簡の内容を分析中の東教授によると、同時代に活躍した文人の蘇洵の作品を要めるなど欧陽修の人柄がうかがえるという。大阪大の浅見洋二教授(中国古典文学)は「天理図書館の原刻本の調査は難しく、今まで気づけなかったのだろう。欧陽修は宋代屈指の詩人。大きな発見だ」と指摘し

ている。

東教授は8日に福岡市東区の九州大箱崎キャンパスで開かれる日本中国学会で研究成果を発表予定。「中国の研究者にも大きな驚きを与えるだろう」と話している。